

女性・少子化問題委員会活動報告及び提言

平成 27 年 2 月～平成 28 年 10 月

東京商工会議所 女性会

女性・少子化問題委員会

序文

平成 26 年 1 月、半世紀先の日本のあるべき姿を模索するべく、内閣府経済財政諮問会議のもとに「選択する未来委員会」が設置され、東京商工会議所三村明夫会頭が会長に就任されました。超高齢化社会を迎える中でのこのような国を挙げての取り組みを受け、女性経営者として、新しい政策提言を行うとともに人々の意識改革を後押しし、明るい日本の未来像を描く一助となるべく、東京商工会議所女性会においても、平成 26 年 10 月女性・少子化問題委員会を立ち上げました。

現代社会においては、保育施設の不足、核家族の中での「子育て」、児童虐待、子育て世代の雇用不安、結婚・子育てに対する価値観の多様化等、少子化をめぐる様々な問題が存在します

平成 27 年 2 月に開催された第 1 回委員会以降、平成 28 年 10 月 11 日の第 20 回委員会まで、ほぼ毎月、女性経営者としてこのような問題にどのように取り組んでいくべきか、また社会に対してどのような解決策を提案することができるか、委員一同、知恵を出し合い、活動を続けて参りました。

この度は、この 3 年間に渡る活動の成果として、少子化対策・女性活躍推進に関するアンケート活動、婚活サポート活動及び少子化問題に関するサマーセミナーの活動について、ご報告させていただきます。

第1 少子化対策・女性活躍推進に関するアンケートの実施（平成27年度）

女性の社会進出に伴い、晩婚・晩産、少子化が進む今日、女性が仕事をしつつ子どもを産み・育てることが、より一層求められています。そこで、当委員会では、少子化及び女性活躍推進の現状を、特に女性経営者の視点から把握し、今後の課題を明らかにするため、東京商工会議所女性会会員企業ほか、都内の女性経営者・経営幹部および女性管理職の方を対象に、平成27年10月から同年12月にかけて、「少子化対策・女性活躍推進に関する女性経営者・管理職の意識調査」と題するアンケート調査を実施しました。

第一部では経営者・管理職としての従業員のマネジメントの観点から、
第二部では、女性経営者・管理職自身の出産・育児に関して、
意識調査を行っています。アンケート結果の詳細は、別紙のとおりです。

第2 サマーセミナーにおける講演会・パネルディスカッションの実施

（平成28年度）

第一部 講演会

講演会においては、株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部研究員 天野馨南子氏を講師としてお迎えし、「子どもたちの笑顔あふれる未来のために真の『女性活躍・少子化対策』の啓蒙を」と題して、講演頂きました。

我が国における少子化対策は、男女雇用機会均等法を通じて女性の社会進出を促すとともに、育児介護休業法の拡充や保育所の整備等を通じて子育てを支援し、女性が働きながら子育てをするための施策を中心とするものです。このような施策は今後も一層の充実が求められるべきものですが、その中で忘れられているのが、妊娠・出産に生物学的な年齢の限界があり、高齢での出産は胎児のみならず、母体にも大きなダメージを与えるハイリスクなものである、という視点です。

出産年齢の上昇（晩産化）は、大変デリケートな問題として、男性側からは話題にしにくい風潮があるようで、深く検討されず政策にも盛り込まれてこなかったという経緯があります。「産めるうちに産める働き方」の実現のための改革は実施されてこず、生まれたあとの育児支援策にのみ力点がおかれてきた、という結果になっております。

また、不妊率は年齢を重ねるごとに上がっていき、30代後半になると3人に1人が不妊状態に陥っている現実を、女性自身が認識していないのではないかと

いう指摘もありました。フランスでは「欲しい時でなく、産める時に赤ちゃんを」というスローガンの下、社会全体での妊娠出産期への正確な理解を深めていきました。

さらに、晩産化によって、育児と親の介護という「ダブルケア」にも直面しています。そして、介護のための離職者の8割が女性だという現実も、女性活躍推進の大きな壁となっています。また、全国平均の出生率は、1.46に対し、東京都の出生率は、1.17となっており、天野氏はこの点について警鐘を鳴らし、現在の日本の高齢出産を前提とした女性活躍は問題がある、として、「出産後のキャリア形成を可能にする多様な働き方を浸透させるべき」という考え方を提唱されています。

特に中小企業については、従業員の大企業に比べ機動性が高いという強みがあること、女性経営者だからこそ、女性従業員の出産とキャリア形成の悩みにタブーなく向き合っていってほしい、というメッセージも頂きました。

第二部 パネルディスカッション

パネルディスカッションメンバー

モデレーター：株式会社麻布タマヤ 代表取締役 志賀律子

パネリスト：株式会社アルバ・パートナーズ 代表取締役 竹内明日香

帝國製菓株式会社 代表取締役社長 藤岡実佐子

株式会社とらうべ 代表取締役社長 南部洋子

オブザーバー：天野馨南子氏

山崎登美子会長

パネルディスカッションに先立ち、山崎会長より産みたいときに産むのではなく、産める時に産む、という天野先生のお話の通り、30歳までに子供を産み、可能ならば35歳から就活し、企業側としても35歳からでも受け入れる体制を作っていきたい、という趣旨のご挨拶がありました。

一時間半にわたるパネルディスカッションでは、「女性経営者による少子化問題の課題と取り組み」と題して、意見交換を行いました。多様な論点に関して、非常に充実した議論が行われました。

助産師である南部氏からは、実務及びヘルスケアサービス事業における経験により、「若いうちの出産は、生物学的なリスクを低減しやすい一方で、現代の核家族社会での子育てでは、精神的に未熟な若いうちに出産した母親が、虐待等の問題に陥りやすい傾向が見られる」との指摘がありました。昔のように隣近所や親戚に赤ちゃんがいて、結婚前から子どもに触れている生活ではなく、自分が出

産してみても初めて赤ちゃんに接することで、想像以上の出来事がたくさん起きること、核家族化でサポート体制がないこと、ネット情報が氾濫しており、逆に混乱する状況を作っていることなど、現実には起きていることの紹介がありました。

藤岡氏は、本社が香川県にあり、自身はベルギーでの子育てを経験したことから、有職無職を問わず夕方まで預けられる外国の幼稚園や、共働きが一般的で住宅環境が良く、地域コミュニティが生きている地方の生活が参考になるとの意見が出ました。

竹内氏からは、我が国における離婚率の増加と、欧米諸国と日本の子育て支援施策の比較から、離婚後も子育てをする母親が孤立しないよう、高福祉国家として子育てを支援していくことが、少子化対策として急務である旨の提言がなされました。

企業の経営者として、従業員の子育て支援と安定した企業経営をどのように舵取りしていくかは、常に難しい問題です。今回は、各パネリストから、自身の企業での取り組みなどについての話もありました。

藤岡氏からは、約 600 名の従業員中、多い時は 20 名前後が産休・育休を取得していたこともあったが、それでもシフトを回せる体制をとっていること。また男性の育休も快諾している旨の経験を披露頂きました。

また南部氏は、「東京ワークライフバランス認定企業」の認定を受け、従業員の育児支援を手厚く行う一方で、権利主張に偏りがちな従業員については、「両立は、会社も家庭もそれぞれが犠牲を払っている。その犠牲をどれだけ小さくするかである」ということから、「会社の仕事が忙しい時はできるだけ親族に協力してもらおう」「職場で周りの人に助けてもらった時は必ず御礼を言う」などの「両立のためのマナー集」を自ら考えさせた、といます。

さらに竹内氏からは、出産・育児を経て復帰した従業員の責任感を育てるためにも、早いうちに管理職に昇進させるべきである。早朝の時間を活用したり、管理職としての自由な裁量を活かして、必ずしも深夜残業をしなくても部下のマネジメントは可能である。などの助言を頂きました。

最後のまとめのメッセージとして、竹内氏からは、父親の育児参加を支援するために、長時間労働の是正と女性の柔軟なキャリア形成を支援していくべきこと。南部氏からは、女性が産める年齢がいつなのかという正しい知識を持ち、その上で、産むか産まないか・いつ産むかを本人が選択できる世の中にしていくべきこと。また会社の人を含めて、周囲の人が子育てについては、おせっかいなくらい口出しすべきであるという提案がされました。藤岡氏からは、仕事と子育てはどちらか一つを選ぶものでなく、どちらも選べるはずのものであり、そのための物理的・経済的・心理的サポートを得られる社会にすべき旨の提言がありました。

た。

第3 婚活サポート（平成27年度・平成28年度）

(1) 平成27年度

平成27年10月2日（金）、霞が関ビル35階の東海大学校友会館において、第一回婚活パーティ「エンジェル大作戦」を行いました。男性30人、女性30人の参加のもと、自己紹介、ハート合わせゲーム、立食形式での会食を行い、最終的に6組のカップルが誕生しました。参加者からの感想としては、「楽しかった」「良い出会いがあった」などの好評価を多く頂きましたが、中には「少なめの参加者でじっくりと交流してみたかった」「自由に歓談できるフリートークの時間を多めに設けて欲しかった」という声も聞かれ、次年度の開催に向けての課題となりました。

(2) 平成28年度

平成28年9月17日（土）、飯田橋のホテルグランドパレスにおいて、男性21人、女性21人（1名欠席）が参加し、第二回婚活パーティ「エンジェル大作戦」を開催しました。今回は始めに天野馨南子氏によるマッチング確率論のプチセミナー等を行い、前年度の課題を修正して、1対1での対話の時間を多くとるなどの工夫をしました。立食形式での懇親会では、休憩時間に異性の名前を書き入れたお名前ビンゴゲームで楽しんでいただき、会話も一層はずみ、中身の濃い4時間となりました。7組のカップルが誕生し、カップル成立は3割を超えました。参加者から会場内の雰囲気が良かったので、自分はキチンと結婚して家庭を築きたいと思ったという嬉しい感想を頂き、委員全員苦勞が報われたひと時でした。

第4 まとめ

今回の2年間を振り返って一番感じたことは、20代・30代前半では結婚に対する意識が薄いという事です。今急速に出生率が1.8や2.08にしても、成人するのは20年後であることから、今後少子化が進むという事は、確定している現実であります。人口密度の高い日本では、人口減が現実であっても人口の質を上げる社会を作れば良いのではないかと思います。

1995年のインターネット時代の幕開けのWindows95の普及から20年で世の中は激変しています。今後の20年で想像できない世の中になっている可能性

が高いと思われます。その為には人口減という事実を正視し、ロボ化等必要な事を重視して開発し、政策も進めていくべきではないかと考えます。

少子化を少しでも食い止めるには、私達企業の経営者は昔のように社員全員が家族のように皆で助け合い、社員の子供は日本の宝であり、私達の子供であり、孫であるという気持ちで一緒に育て育んでいく環境を提案、提供していく事が一助になると考えます。また、晩婚化を解消し結婚に踏み切らせるためには、「20歳以上の成人した子供は親と同居させない」という事も一案であります。パラサイトシングル化している人々に一人暮らしを経験させ、自分ひとりで身の回りの事をする事の不便さや病気や災害の時の心細さを実感させ、一人暮らしより二人暮らしの方が収入や家事労働力が増えることへ気づかせることが、結婚への動機づけになり、効果があらわれるのではないのでしょうか。

結論としては、小さな事の気づきや目覚めかもしれませんが、少しでも少子化の壁を破っていければ良いと思っております。

以上

本報告及び提言書制作メンバー

会 長	山崎 登美子
担当副会長	市瀬 優子
リーダー	大津 洋子
サブリーダー	会田 ミヨ子
サブリーダー	藤岡 実佐子
サブリーダー	丸田 清美
担当リーダー	南部 洋子
担当サブリーダー	坂野 維子

女性・少子化問題委員